



ついに到着、大谷翔平選手からのグローブ



校長 霜田 恵子

念願のグローブが昨日、東市ヶ尾小学校に届きました！

そして、本日、子どもたちにテレビで紹介します。待ちわびていた子も、ひと目見たい、触りたいと思っている子も、あんまり興味のない子も、もちろんいます。子どもたちはこのグローブから何を学んでいくのか、そしてどう活用していくのか楽しみです。

冬休みに見たテレビで、大谷翔平選手の母校にグローブが届いた様子が報道されました。それから、東市ヶ尾小学校にはいつ届くのかしらと待ち侘びる日々。朝、地域の方にお会いすると、「校長先生、大谷のグローブは届きましたか？」と尋ねられることもあり、社会の関心の高さを実感しておりました。

このグローブを全国の小学校に送るにあたって、大谷選手の一声から、急いで材料を仕入れた方がきつといらして、締め切りに追われながら製造してくださった方々がおられるのでしょう。少子化や野球人気の低下、さらにはコロナでの不景気…と苦しかった経済が大きく動かされたのだろうか…と想像しました。配送の仕事の方は、ただでさえ忙しい業務がさらに忙しくなってしまったかもしれません。荷物が大谷選手のグローブと分かって気持ちがちょっぴり明るくなったかもしれません。何より、日本全国の子どもたちが、今か今かと待ちわびたり、わくわくしながらキャッチボールをしたり、その様子を見て野球に興味を初めてもつ子もいるのでしょう。それを見る大人も、わくわくする…、社会全体を大きく動かす夢のある思いつきだったように感じられます。

昨年のWBCで日本を優勝に導き、メジャーリーガーとして大活躍している人気者、ドジャースの移籍に関しては破格の年棒が報道され、子どもたちの憧れの大谷翔平選手は、粋なことをするなあ、考えることのスケールが大きいなあと思いました。子どもたちだけでなく大人たちにも夢を与えてくれます。

なんと、ある市役所に展示したら異議が寄せられるということもありました。「野球しようぜ!」と子どもたちを誘って、子どもたちにプレゼントされたものですから、どんどん使うべきです。でも、多くの小学校が、硬球とバットの使用はだめというきまりをもっているのも事実です。…使いたい子に平等に使ってもらうには…、飾るのでなく、野球のために使うには…、どうする??うれしい悩みは尽きません。

東市ヶ尾小学校の子どもたちへのプレゼントですから、明日から3個セットで各教室に順番にまわすことにしました。本校の校庭では、硬球やバットを使えないので、当面の間は、柔らかいボールでキャッチボールを楽しむことになりそうです。そのあとのルールは、子どもたちの希望を取り入れながら決めていきたいと思えます。①野球をするためにプレゼントされたもの、飾るだけの選択肢はない。②使いたい人は、平等に使う。③東市ヶ尾小学校の宝物。無くさない。(クラブチーム等外部への貸し出しは考えていません…。)この3点を守って、みんなからアイデアを大募集します!!

きまりは何のためにあるのか考え直すよい機会、みんなでアイデアを出してきまりを作りましょう!